

Orchestrator v2018 導入ステップバイステップガイド





Information contained herein is confidential and may be disclosed only with the written permission of UiPath. All rights reserved.

UiPath Robotic Process Automation ®

リビジョン履歴

Date	Version	Author	Description
31 st May 2018	2018.1	Hideaki.F	First draft version
9 th June 2018	2018.2	Hideaki.F	Updated based on feedback First release version





目次

内容

1.	はし	じめに	4
2.	Orc	hestrator インストール前の準備	4
	2.1.	必要なコンポーネントのダウンロード	4
	2.2.	前提条件のコンポーネントのインストール	6
	2.3.	サーバー証明書のインストール	10
	2.4.	SQL Server のインストールと設定	11
	2.5.	Redis インストール手順	16
3.	Orc	hestrator インストール手順	17
	3.1.	バージョンと冗長構成に応じた手順の概要	17
	3.2.	Orchestrator インストール (MSI)	17
	3.3.	Orchestrator インストール (v2018.2 冗長化構成)	22
	3.4.	Orchestrator インストール (v2018.1 冗長化構成)	25
4.	Orc	hestrator インストール確認と初期設定	29
5.	Elas	sticsearch / Kibana 連携	31





	5.1	Elasticsearch の構成概要	.31
	5.2	Windows 版 Elasticsearch のインストールと設定手順	.32
	5.3	Windows 版 Kibana のインストールと設定手順	.36
	5.4	Orchestrator での Elasticsearch 接続設定と動作確認	.38
6.	. 種	での設定	. 40
	6.1	Attended / Unattended Robot との接続設定	. 40
	6.2	Active Directory 連携	. 42
	6.3	高密度 (High Density) ロボットの使用	. 47
	6.4	テナントの作成	. 52
	6.5	組織単位(ユニット)の作成	53





1. はじめに

- 本文書では Orchestrator v2018.1 または v2018.2 を Windows Server 2016 (日本語) にインストールする手順に ついて説明します。スクリーンショットは主に Windows Server 2016 環境で取得していますが、手順は Windows Server 2012 R2 においても同様です。
- 原則として IIS と SQL Server をそれぞれインストールするために 2 台の Windows Server を準備します。検 証環境では共存も可能ですが、本番環境では分離することを強く推奨します。なお冗長構成ではさらに多 くの台数の Windows Server が必要となります。
- システム要件は Web サイトのガイドを参照してください。
 - ハードウェア要件: https://orchestrator.uipath.com/docs/hardware-requirements-orchestrator
 - ソフトウェア要件: https://orchestrator.uipath.com/docs/software-requirements

2. Orchestrator インストール前の準備

2.1. 必要なコンポーネントのダウンロード

- 前提条件となる次のコンポーネントをダウンロードします。
- .NET Framework 4.7.1: https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=56116
 - * または.NET 4.6.2: https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=53344
 - **※ 注意:** Windows Server 2012 R2 で.NET Framework をインストールするには、あらかじめ KB2919355 が適用されていることを確認します: https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=42334
- Web Deploy 3.5: https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=39277
- URL Rewrite 2.1: https://www.iis.net/downloads/microsoft/url-rewrite
 - ➤ Japanese: x64 を使用
- Microsoft SQL Server: 適切なエディションのメディアを準備します。
 - ▶ 検証環境の場合では Express Edition も使用可能です: https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=54284
- Microsoft SQL Server Management Studio (SSMS): https://docs.microsoft.com/ja-ip/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms

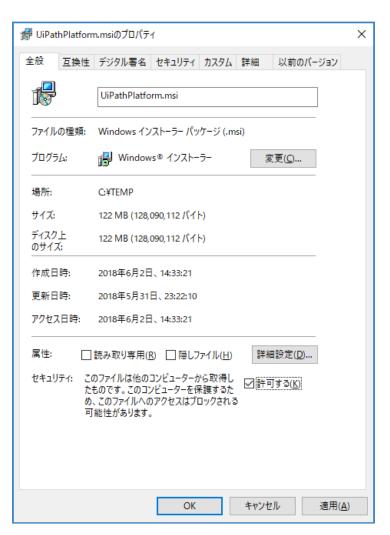




- Orchestrator ロール設定スクリプト: http://www.uipath.com/hubfs/server/AddServerRolesAndFeatures.zip
- 最新版 Orchestrator インストーラー:
 - MSI: https://download.uipath.com/UiPathPlatform.msi
 - ン スクリプト: https://download.uipath.com/UiPathOrchestrator.zip

※ 注意:

- ▶ 旧バージョンが必要な場合には UiPath 社までお問い合わせください。
- ▶ ダウンロード後、それぞれのファイルを右クリック、プロパティを開き、セキュリティ警告が表示される場合には、ファイルアクセスを許可するチェックをオンにします。

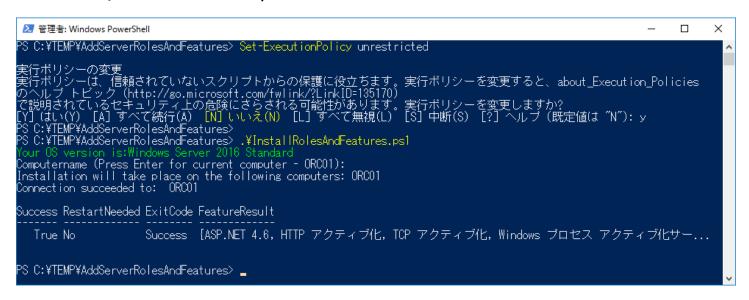






2.2. 前提条件のコンポーネントのインストール

- IIS サーバー側でロール設定スクリプトを実行し、必要な役割と機能を有効にします。
 - ➤ AddServerRolesAndFeatures.zip を解凍します。
 - ▶ Windows PowerShell を管理者として実行します。
 - ▶ 次のコマンドを実行し、PowerShell スクリプトの実行を許可します。
 - ♦ Set-ExecutionPolicy unrestricted
 - ▶ 解凍ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行し、エラーが発生しないことを確認します。
 - ♦ .\InstallRolesAndFeatures.ps1



● サーバーマネージャーで役割と機能の追加ウィザードを起動し、次の役割と機能がインストールされていることを確認します。

Web サーバー(IIS) (21/43 個をインストール済)			
[X] Web サーバー (IIS)	Web-Server		
[X] Web サーバー	Web-WebServer Web-Common-Http		
[X] HTTP 共通機能	Web-Http-Errors		
[X] HTTP エラー	Web-Dir-Browsing		
	Web-Default-Doc		
[X] ディレクトリの参照	Web-Static-Content		





[X]	既定の	ドキュメン	· -
1/\1		1 1 1 / /	

- [X] 静的なコンテンツ
- []HTTPリダイレクト
- [] WebDAV 発行

[X] セキュリティ

- [X] 要求フィルター
- [] IIS クライアント証明書マッピング認証
- [X] IP およびドメインの制限
- [X] SSL 証明書の集中サポート
- [X] URL 承認
- [X] Windows 認証
- [X] クライアント証明書マッピング認証
- []ダイジェスト認証
- [X] 基本認証
- [X] パフォーマンス
 - [X] 静的なコンテンツの圧縮
 - []動的なコンテンツの圧縮
- [X] 状態と診断
 - [X] HTTP ログ
 - [] ODBC ログ
 - []カスタムログ
 - []トレース
 - []ログツール
 - []要求の監視
- [X] アプリケーション開発
 - [].NET 拡張機能 3.5
 - [X] .NET 拡張機能 4.5
 - [] Application Initialization
 - [] ASP
 - [] ASP.NET 3.5
 - [X] ASP.NET 4.5

Web-Http-Redirect

Web-DAV-Publishing

Web-Security

Web-Filtering

Web-Cert-Auth

Web-IP-Security

Web-CertProvider

Web-Url-Auth

Web-Windows-Auth

Web-Client-Auth

Web-Digest-Auth

Web-Basic-Auth

Web-Performance

Web-Stat-Compression

Web-Dyn-Compression

Web-Health

Web-Http-Logging

Web-ODBC-Logging

Web-Custom-Logging

Web-Http-Tracing

Web-Log-Libraries

Web-Request-Monitor

Web-App-Dev

Web-Net-Ext

Web-Net-Ext45

Web-AppInit

Web-ASP

Web-Asp-Net

Web-Asp-Net45

Web-CGI

Web-ISAPI-Filter

Web-ISAPI-Ext

Web-WebSockets

Web-Includes

Web-Ftp-Server

Web-Ftp-Service

Web-Ftp-Ext

Web-Mgmt-Tools

Web-Mgmt-Console

Web-Mgmt-Compat

Web-Metabase





[] CGI

[X] ISAPI フィルター

[X] ISAPI 拡張

[X] WebSocket プロトコル

[X] サーバー側インクルード

[] FTP サーバー

[] FTP サービス

[] FTP 拡張

[X] 管理ツール

[X] IIS 管理コンソール

[] IIS 6 管理互換

[] IIS 6 メタベース互換

[] IIS 6 WMI 互換

[] IIS 6 スクリプト ツール

[] IIS 6 管理コンソール

[X] IIS 管理スクリプトおよびツール

[]管理サービス

Web-WMI

Web-Lgcy-Scripting

Web-Lgcy-Mgmt-Console

Web-Scripting-Tools

Web-Mgmt-Service

.NET Framework 4.5 Features (5/7 個をインストール済)

[X] .NET Framework 4.5 Features

[X] .NET Framework 4.5

[X] ASP.NET 4.5

[X] WCF サービス

[X] HTTP アクティブ化

[X] TCP アクティブ化

[X] TCP ポート共有

[] メッセージ キュー (MSMQ) アクティブ化

[]名前付きパイプのアクティブ化

NET-Framework-45-Features

NET-Framework-45-Core

NET-Framework-45-ASPNET

NET-WCF-Services45

NET-WCF-HTTP-Activation

NET-WCF-TCP-Activation

NET-WCF-TCP-PortSharing

NET-WCF-MSMQ-Activation

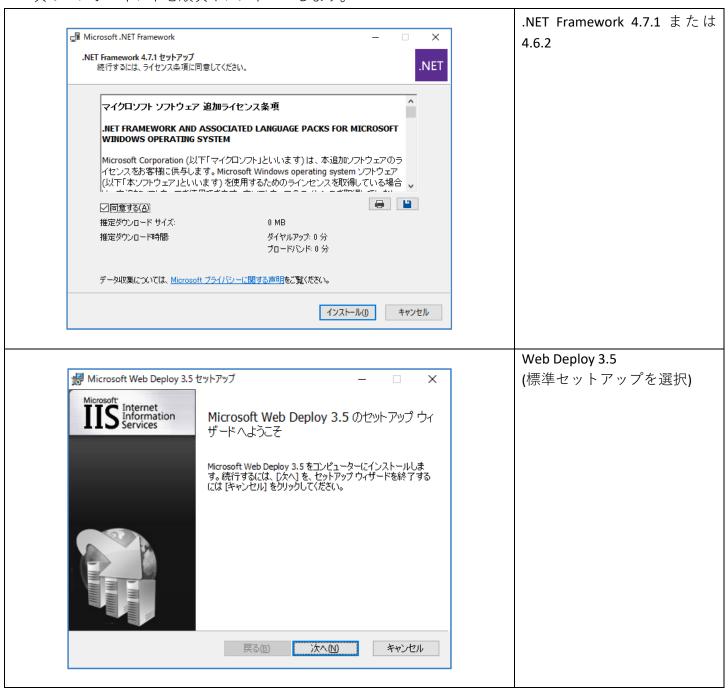
NET-WCF-Pipe-Activation

※注意: PowerShell スクリプトの実行が失敗する場合には、上記の役割と機能を手動で追加します。 特定環境下において手動でも TCP アクティブ化が有効にできない事象が報告されているため、Windows Server インストール直後にこのスクリプトを実行することを推奨します。





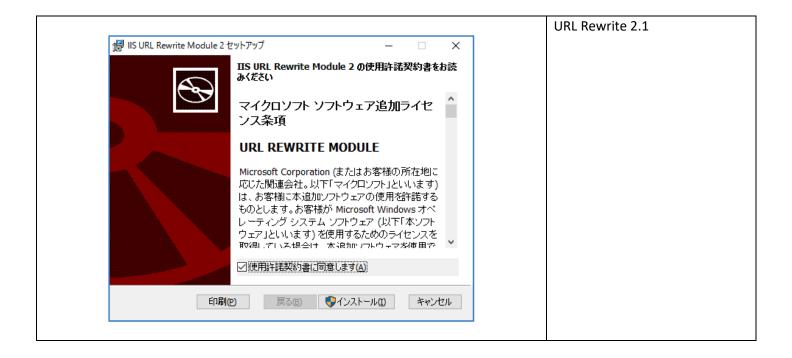
● 次のコンポーネントを順次インストールします。



q





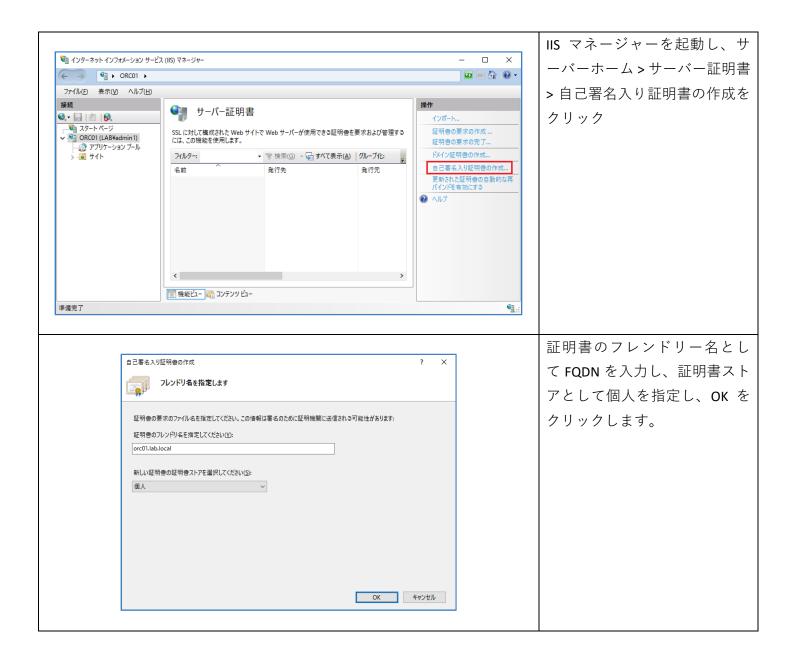


2.3. サーバー証明書のインストール

- IIS にて HTTPS 通信を行うためにサーバー証明書を、パブリック証明機関 (CA)、ドメイン証明機関 (CA) または自己署名にて発行します: https://orchestrator.uipath.com/docs/using-a-certificate-for-the-https-protocol
- 自己署名証明書は検証環境でのみ使用することを推奨します。証明書を発行するには、次の手順を実行します。





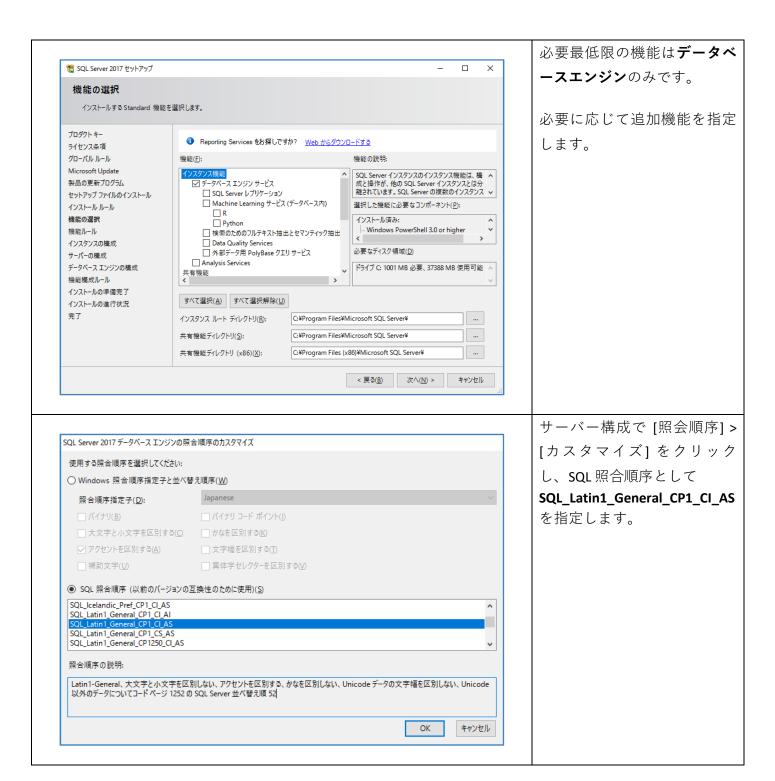


2.4. SQL Server のインストールと設定

● SQL Server インストールと設定には次の点に留意します。

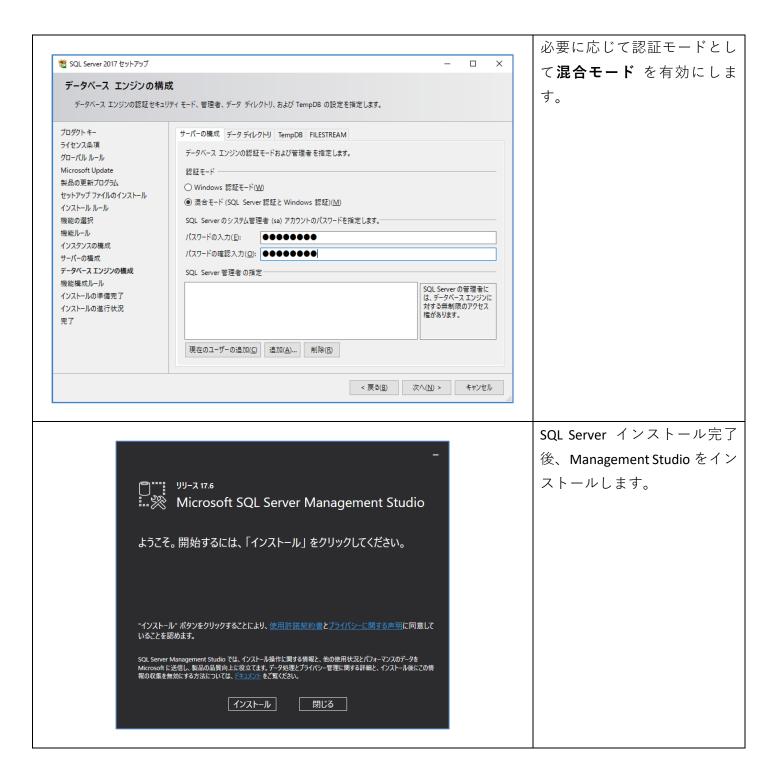






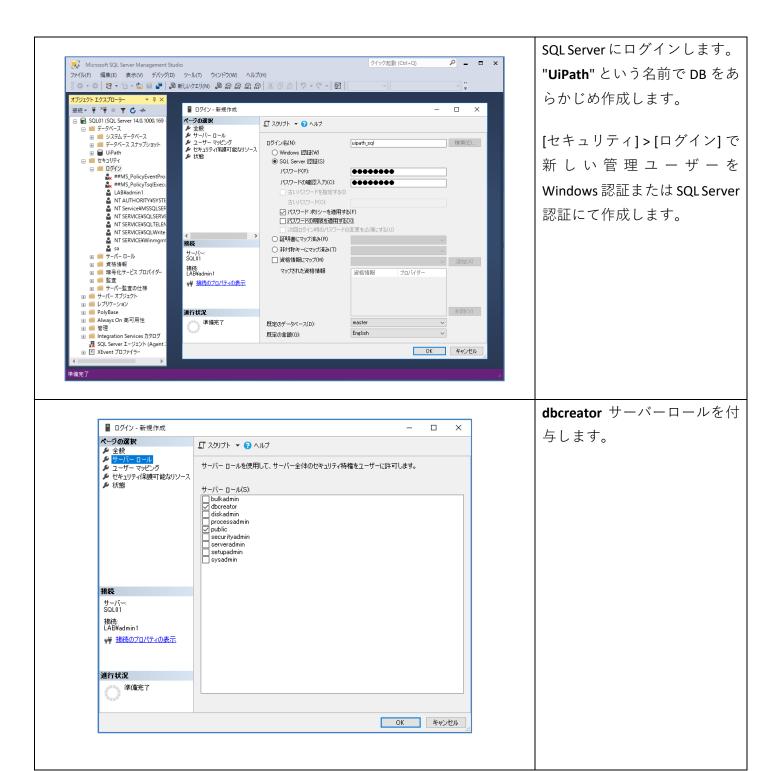






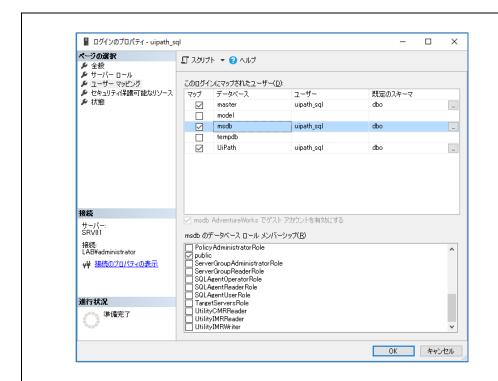






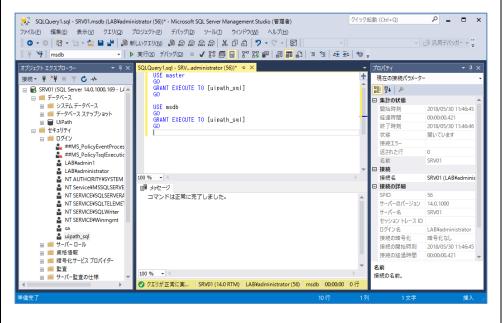






ユーザーマッピングにて UiPath データベースに対して db_o ロールを付与します。

また master および msdb データベースに対しても public ロールを付与します。



新しいクエリにて次の **SQL** を 実行します。

USE master

GO

GRANT EXECUTE TO [uipath_sql] GO

USE msdb

GO

GRANT EXECUTE TO [uipath_sql] GO

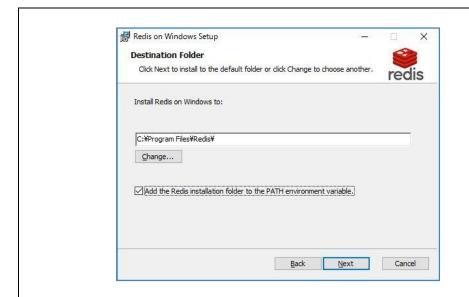
一旦切断し、新しく作成した ユーザーで SQL Server にログ インできることを確認しま す。



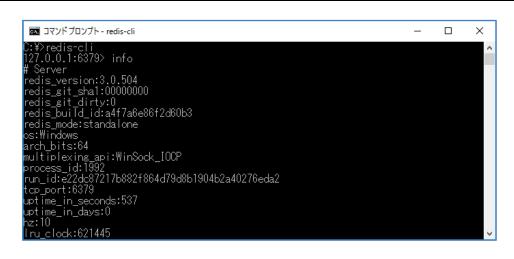


2.5. Redis インストール手順

- Orchestrator を冗長構成でインストールする場合、Redis が必須コンポーネントとなります。
 - ▶ Orchestrator をスタンドアローンでインストールする場合、Redis は不要です。
- ここでは Windows 版 Redis をスタンドアローンでインストールする手順について説明します。
 - ▶ Linux 版 Redis のインストールや Redis の冗長構成については別ドキュメントをご参照ください。
- Redis v3.0.504 インストーラーをダウンロードします: https://github.com/MicrosoftArchive/redis/releases



インストールはデフォルト 設定を使用し、Add the Redis installation folder to the PATH environment variable の チェックをオンにします。



Redis の状態を見るには、redis-cli コマンドを実行し、info と打って Redis サーバーの情報が表示されることを確認します。

又は <u>Redis Desktop Manager</u> や <u>Redis React Console</u> など GUI クライアントを使用し ます。





- Redis サーバーへの接続でパスワードを設定するには、次の手順を実行します。
 - Redis 設定ファイル (C:\Program Files\Redis\redis.windows-service.conf) をエディターで開き、次の行でパスワードを設定します:
 - ▶ Windows サービスで Redis サービスを再起動します。

3. Orchestrator インストール手順

3.1. バージョンと冗長構成に応じた手順の概要

● Orchestrator のインストール手順はバージョンと冗長構成有無により異なります。それぞれの場合において手順を実行します。

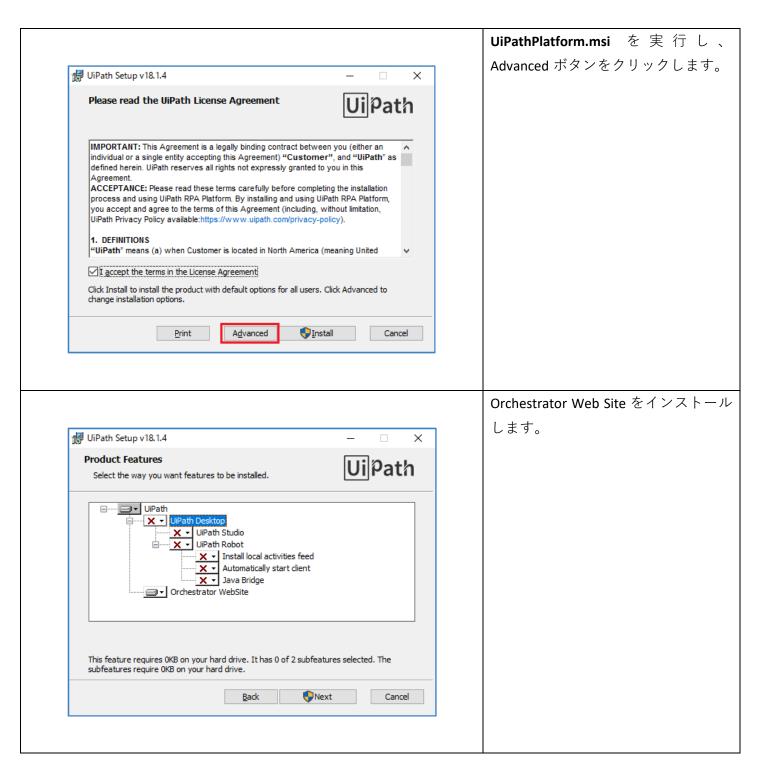
バージョン	冗長構成なし	冗長構成あり
v2018.1	MSI でインストールおよび初期設定	スクリプトでインストールおよび初期設定
	(手順 3.2 参照)	(手順 3.4 参照)
v2018.2	MSI でインストールおよび初期設定	MSI でインストール後、スクリプトで初期設
	(手順 3.2 参照)	定 (<u>手順 3.2</u> および <u>手順 3.3</u> 参照)

3.2. Orchestrator インストール (MSI)

● MSI インストーラー **UiPathPlatform.msi** を使用して **O**rchestrator をインストールするには次の手順を実行します。詳細な手順は https://orchestrator.uipath.com/docs/the-windows-installer を参照してください。

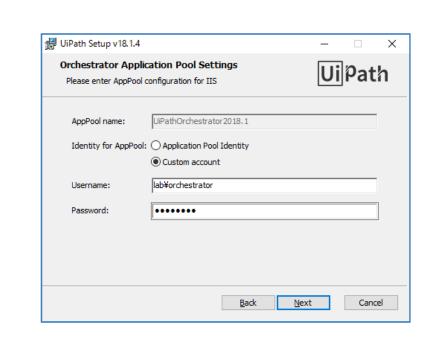






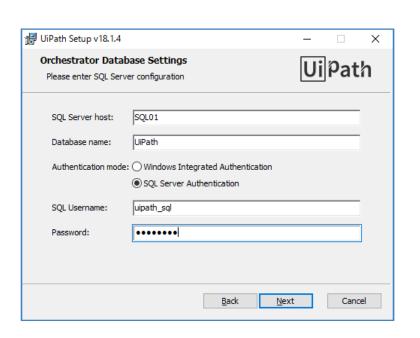






Application Pool Settings では、

- SQL Server に対して Windows 認証を使用する場合には、Custom account を指定し、SQL Server に権限のある Windows 資格情報を指定します。またパッケージの配置ディレクトリとしてファイルサーバーを指定する場合には読み取り/書き込み権限を持つユーザーを指定します。
- SQL Server 認証を使用する場合 は、Application Pool Identity また は Custom account のいずれも指 定することが可能です。

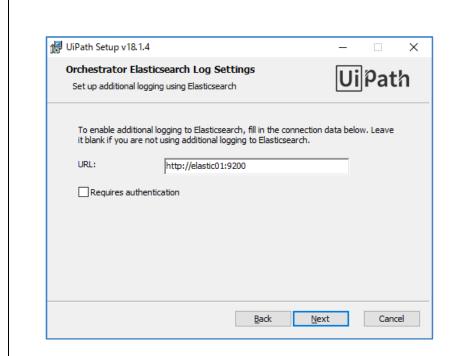


SQL Server ホスト、データベース名、 認証方式、アカウント情報を入力し ます。

接続エラーが発生する場合には、 SQL Server側にてファイアウォールと アカウント情報を確認します。



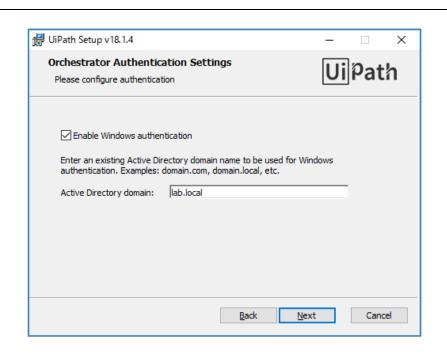




Elasticsearch を使用する場合には URL を指定します。

使用しない場合には空白のままにし ます。

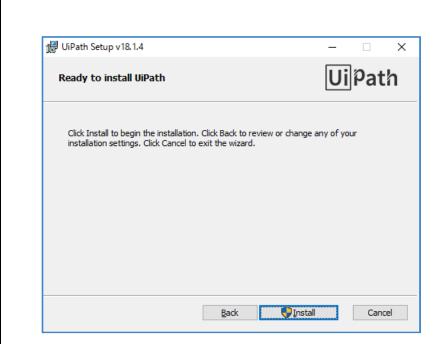
インストール後、手動で Elasticsearch の URL を指定するには<u>手順 5.4</u>を参 照します。



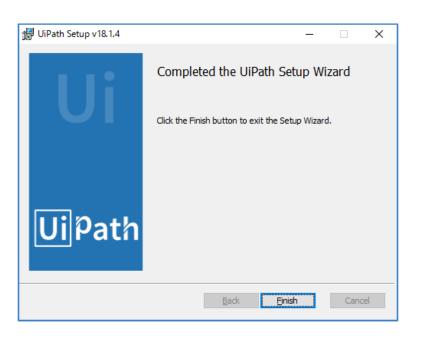
Orchestrator へのログインに Windows 認証を使用する場合は、チェックを オンにし、ドメイン名を指定しま す。







インストールを開始します。



インストールが正常に完了すること を確認します。

デフォルトインストールディレクト リ は C:\Program Files (x86)\UiPath \Orchestrator です。

インストールが失敗する場合には、 次のコマンドを実行しインストール ログを取得します。

msiexec /i UiPathPlatform.msi /l*v UiPathInstall.log





3.3. Orchestrator インストール (v2018.2 冗長化構成)

- このセクションでは Orchestrator v2018.2 で冗長化構成にてインストールする手順を説明します。
- まず<u>前章の手順</u>で MSI インストーラーを使用して Orchestrator を各サーバーでインストールします。その際、SQL Server は同一のサーバーを指定します。
- インストール後、C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator\Tools 配下の **Configure-PlatformNode.ps1** スクリプトを使用して冗長化構成に必要な設定を行います。

主に使用する設定パラメーター

● 設定スクリプトで使用可能な主なパラメーターは下記の通りです。

パラメーター名	タイプ	既定値	説明
mode	文字列		ConfigurePrimary 冗長構成で最初に
			インストールするノードを構成する
			ConfigureSecondary 冗長構成で最初
			のノードの設定を利用して2台目以
			降のノードを構成する
			ConfigureStandalone 冗長構成を使
			用しないスタンドアローン構成に戻
			す
websiteName	文字列	UiPathOrchestrator	IIS で表示される Orchestrator の Web
			サイト名
nugetPackagesPath	文字列	~/NuGetPackages	パッケージの保存ディレクトリ
			Orchestrator を複数ホストにインスト
			ールする場合は共有ディレクトリや
			マップドライブを指定する
			インストール時に指定された
			Application Pool Identity または Custom
			account のアカウントがこのディレク





			トリに対して 読み取り/書き込み 権
			限を持つことを確認する
nugetActivitiesPath	文字列	~/NuGetPackages/Activities	アクティビティの保存ディレクトリ
			Orchestrator を複数ホストにインスト
			ールする場合は共有ディレクトリや
			マップドライブを指定する
nugetPackagesApiKey	文字列		パッケージフィードの NuGet API キ
			_
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
nugetActivitiesApiKey	文字列		アクティビティフィードの NuGet API
			キー
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
redisServer	文字列	ローカルコンピューター名	Redis サーバーのホスト名
redisPassword	文字列		Redis サーバーのパスワード
redisPort	数值	6379	Redis サーバーのポート番号
encryptionKey	文字列		Orchestrator によって使用される暗号
			化キー
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
machineKeyDecryptionKey	文字列		Orchestrator セッションにより使用さ
			れる復号化キー
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
machineKeyValidationKey	文字列		Orchestrator セッションにより使用さ
			れる検証キー
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する

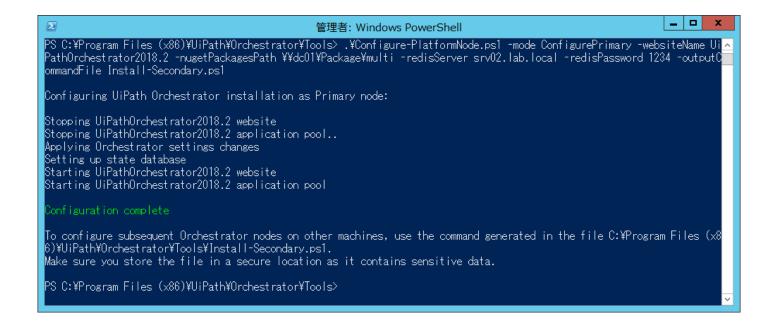




leaveWebsiteStopped	スイッチ	構成後、サイトを開始しない場合に
		指定する
		デフォルトではサイトが開始される
outputCommandFile	文字列	冗長構成で最初のノードを構成する
		時 (mode が ConfigurePrimary) に 2 台
		目以降を構成するスクリプトのファ
		イル名を指定する

構成スクリプト実行例

- 最初の Orchestrator サーバーで実行するコマンドの例を示します。
 - \Configure-PlatformNode.ps1 -mode ConfigurePrimary -websiteName UiPathOrchestrator2018.2 -nugetPackagesPath \fileshare\NuGetPackages -redisServer redis.domain.local -redisPassword 1234 -outputCommandFile Install-Secondary.ps1



● 生成された Install-Secondary.ps1 を 2 台目以降の Orchestrator において C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator\Tools にコピーし、スクリプトを実行します。Redis パスワードは手入力します。







3.4. Orchestrator インストール (v2018.1 冗長化構成)

- このセクションでは Orchestrator v2018.1 で冗長化構成にてインストールするために、 UiPathOrchestrator.zip に含まれるスクリプトを使用して Orchestrator をインストールする手順について説明します。
- 詳細な手順は次のサイトを参照してください。
 - https://orchestrator.uipath.com/v2018.1/docs/installation-using-scripts
 - https://orchestrator.uipath.com/v2018.1/docs/cluster-installation

主に使用するインストールパラメーター

● インストールスクリプトで使用可能な主なパラメーターは下記の通りです。

パラメーター名	タイプ	既定値	説明
iisWebSiteName	文字列	UiPathOrchestrator	IIS で表示される Orchestrator の Web サイト名
iisWebSitePort	文字列	0	Orchestrator Web サイトにより使用されるポート
			番号
			0 の場合は既定値で HTTPS 用に 443 が使用される
useAppPoolIdentity	スイッチ		アプリケーションプールを AppPoolIdentity で起動
			するスイッチ





			指定しない場合は Windows 資格情報を指定する
5 lug l			
appPoolWindowsUsername	文字列		アプリケーションプールを起動する Windows ユー
			ザー名
appPoolWindowsPassword	文字列		アプリケーションプールを起動する Windows ユー
			ザーのパスワード
iisHostname	文字列		Orchestrator にアクセスするホスト名
			コンピューター名以外でアクセスする場合 (FQDN
			やネットワークロードバランサーを使用する場合
			など) に指定する
directoryPath	文字列	C:\Inetpub\	アプリケーションのインストールパス
useSQLAuthentication	スイッチ		SQL Server 認証を使用する場合のスイッチ
dbServerInstance	文字列		SQL Server インスタンス名
dbServerUsername	文字列		SQL Server 接続ユーザー名
dbServerPassword	文字列		SQL Server 接続ユーザーのパスワード
mainDatabase	文字列	UiPath	メインのデータベース名
noElasticSearch	スイッチ		ロギングに Elasticsearch を使用しない場合のスイ
			ッチ
elasticSearchUrl	文字列		Elasticsearch サービスの URL
environmentName	文字列		同じマシンに Orchestrator を複数インスタンス
			インストールする場合のインスタンス名
packagesPath	文字列	~/NuGetPackages	パッケージの保存ディレクトリ。Orchestrator を複
			数ホストにインストールする場合は共有ディレク
			トリを指定する
			インストール時に指定された Application Pool
			Identity または Custom account のアカウントがこの
			ディレクトリに対して読み書き権限が必要となる
installRedis	スイッチ		Windows 版 Redis サーバーをローカルにインスト
			ールするスイッチ





signalrSessionStore	文字列		SignalR セッションが保持されるストレージ
			SQLServer または Redis を指定する
redisServer	文字列	ローカルコンピ	Redis サーバーのホスト名
		ューター名	
redisPassword	文字列		Redis サーバーのパスワード
redisPort	数值	6379	Redis サーバーのポート番号
clusterMode	文字列	Off	クラスタをどのように構成するかのパラメーター
			- Off クラスタを構成されません
			- FirstNode 最初のノードで暗号化キー、NuGet
			キーおよびマシンキーを生成し、OtherNode にす
			べての設定を適用
			- OtherNode 2 台目以降のノードで FirstNode で
			生成された設定を元にクラスタを構成
sslCertificate	文字列		HTTPS 接続で使用される SSL 証明書の名前
parametersFile	文字列		FirstNode インストールによって生成される
			parameters.json ファイルのパス
downloadActivities	スイッチ		最新版アクティビティをダウンロードするスイッ
			チ

◆ 次にいくつかのインストールシナリオでのコマンド例を示します。

SQL Server 認証・Redis 有りのインストール例

- 管理者権限 PowerShell を使用して最初のノードを次のコマンドでインストールします。
 - \Install-Orchestrator.ps1 -clusterMode FirstNode -iisWebSiteName OrchestratorMultiNode -sslCertificate orc01.domain.local -useAppPoolIdentity -redisServer redis01 -redisPassword 1234 -signalrSessionStore Redis useSQLAuthentication -dbServerInstance sql01 -dbServerUsername uipath_sql -dbServerPassword 1234 noElasticSearch -packagesPath \fileshare\NuGetPackages
- 上記のスクリプト実行により最初のノードのカレントディレクトリに生成された parameters.json を 2 番目 以降のノードにコピーします。





- 2番目以降のノードでは、次のコマンドでインストールします。
 - Install-Orchestrator.ps1 -clusterMode OtherNode -iisWebSiteName OrchestratorMultiNode -sslCertificate orc02.domain.local -useAppPoolIdentity -noElasticSearch -parametersFile parameters.json

Windows 認証・Redis 有りのインストール例

- 管理者権限 PowerShell を使用して最初のノードを次のコマンドでインストールします。
 - \Install-Orchestrator.ps1 -clusterMode FirstNode -iisWebSiteName OrchestratorMultiNode -sslCertificate orc01.domain.local -appPoolWindowsUsername domain\admin-user -appPoolWindowsPassword admin-password -redisServer redis01 -redisPassword 1234 -signalrSessionStore Redis -dbServerInstance sql01 noElasticSearch -packagesPath \fileshare\NuGetPackages
- 上記のスクリプト実行により最初のノードのカレントディレクトリに生成された parameters.json を 2 番目 以降のノードにコピーします。
- 2番目以降のノードでは、次のコマンドでインストールします。
 - \Install-Orchestrator.ps1 -clusterMode OtherNode -iisWebSiteName OrchestratorMultiNode -sslCertificate orc02.domain.local -appPoolWindowsUsername domain\admin-user -appPoolWindowsPassword admin-password -noElasticSearch -parametersFile parameters.json

スクリプトによるアンインストール例

- Orchestrator をアンインストールするには管理者権限 PowerShell を使用して、すべてのノードで次のコマンドを実行します。iisWebSiteName の引数にはサイト名を指定します。
 - \Delete-Orchestator.ps1 -iisWebSiteName OrchestratorMultiNode
- データベースは自動的に削除されないため、必要に応じて手動で削除します。





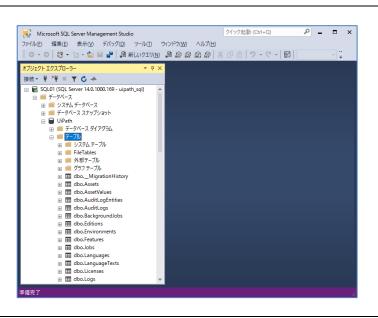
4. Orchestrator インストール確認と初期設定

● 次の手順を実行して Orchestrator は正常にインストールされていることを確認します。



IIS 管理コンソールを開き、

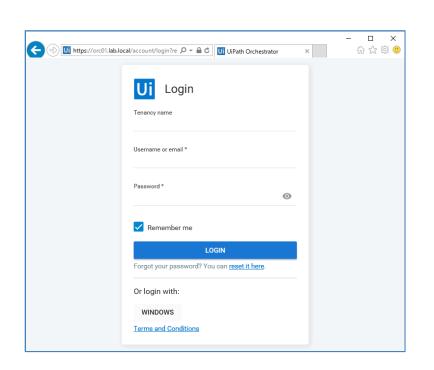
UiPathOrchestrator* という名前でサイトが作成されていることを確認します。



SQL Server Management Studio にて データベース > "UiPath" > テーブルを展開し、テーブルが作成されていることを確認します。



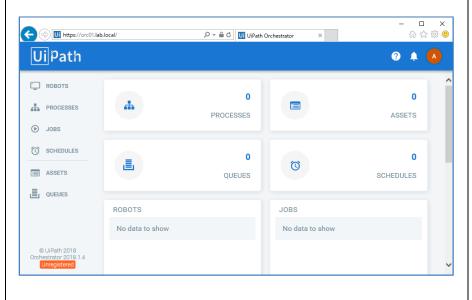




https://<orchestrator-FQDN>/ にアクセスし、ログイン画面が正常に表示されることを確認します。

注意:

- IE11 を使用する場合は信頼済み サイトに追加します。
- Orchestrator インストール時に Windows 認証を有効にした場合、Or login with [WINDOWS] が表示されます。



管理者アカウントで正常にログイン で き る こ と を 確 認 し ま す 。 Orchestrator のデフォルト管理者ユーザーおよびパスワードは次の通りで す。

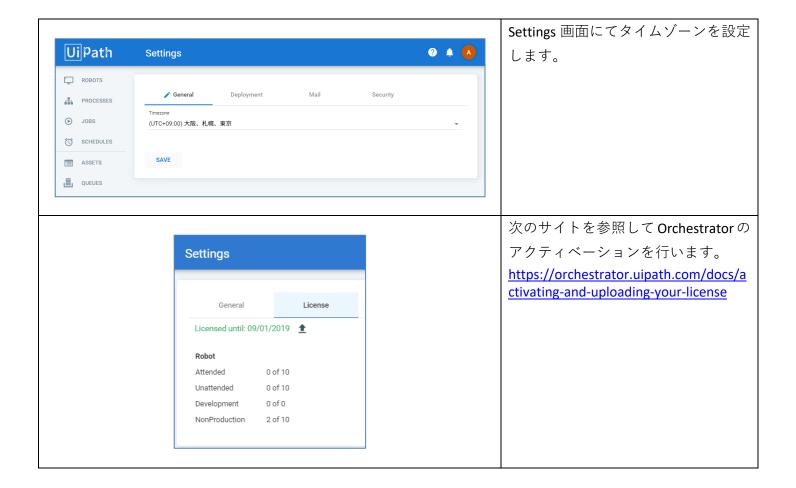
Tenancy name: default

Username: adminPassword: 890iop

Orchestrator v2018.2 では初回ログイン時にパスワード変更が求められます。







5. Elasticsearch / Kibana 連携

5.1 Elasticsearch の構成概要

- ワークフロー実行ログはデフォルトで SQL Server データベースの Logs テーブルに記録されますが、 Orchestrator のオプション設定により Elasticsearch にもログを記録することができます。Elasticsearch に保存された実行ログは Kibana を使用して多角的に分析し可視化することが可能になります。
- Elasticsearch のシステム要件は次のサイトを参照してください。
 - https://www.elastic.co/guide/en/elasticsearch/guide/current/hardware.html





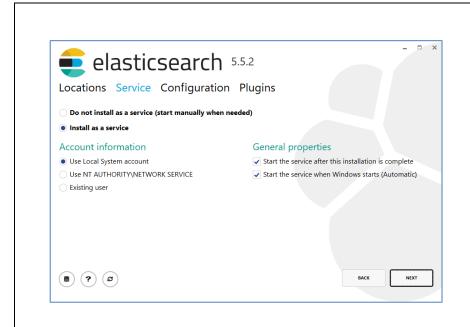
5.2 Windows 版 Elasticsearch のインストールと設定手順

- ここでは Windows 版 Elasticsearch をスタンドアローンでインストールする手順について説明します。
- 次のサイトより Elasticsearch 5.5.2 の MSI インストーラーをダウンロードします。
 - https://www.elastic.co/downloads/past-releases/elasticsearch-5-5-2
- Elasticsearch の前提条件コンポーネントとして JRE (Java Runtime Environment) が必須となるため、推奨バージョンを次のサイトよりダウンロードします。
 - https://www.java.com/en/download/manual.jsp

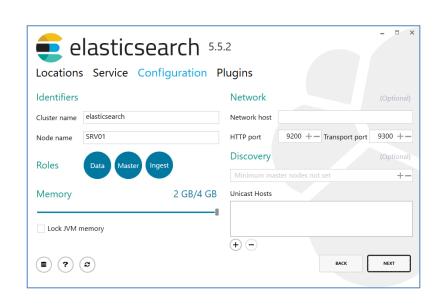








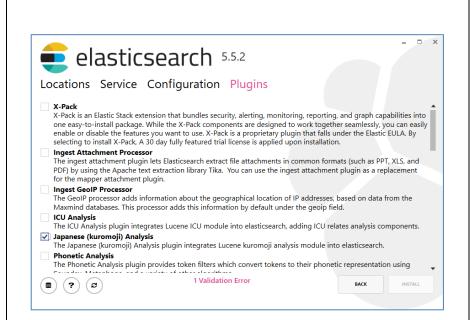
サービスはデフォルト設定を使用し ます。



メモリ割り当てはデフォルトでは 2GBとなっていますが、OSメモリの 半分より少ない量を割り当てます。







Elasticsearch 上で日本語検索を行う場合には kuromoji プラグインをインストールします。

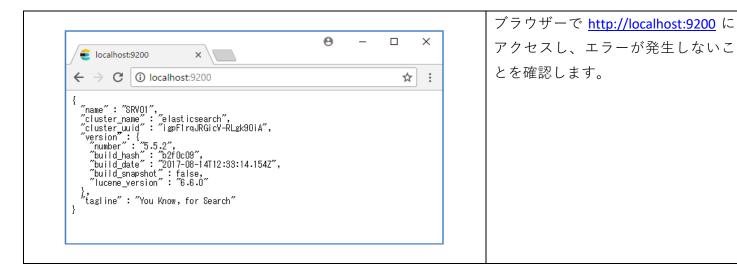
インターネット接続が必須となりま す。



Elasticsearch のインストールが正常終 了することを確認します。







● C:\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\config\elasticsearch.yml を開き、必要に応じて下記のパラメーターを変更します。

パラメーター名	既定値	説明
cluster.name	elasticsearch	クラスタ名
node.name	ホスト名	ノード名
bootstrap.memory_lock	false	true の設定した場合、メモリスワップ時に
		Elasticsearch プロセスを保護
path.data	C:\ProgramData\Elastic\	データ保存ディレクトリ
	Elasticsearch\data	
path.logs	C:\ProgramData\Elastic\	ログ保存ディレクトリ
	Elasticsearch\logs	
discovery.zen.minimum_master_nodes	1	Elasticsearch クラスタを複数台で構成する場
		合、ノードダウン時に "Split-Brain" と呼ばれ
		るクラスタが分離する状態を防ぐため、マ
		スター選出するための台数を指定します。
		原則して (ノード数/2)+1 の整数を指定しま
		す。たとえばノード数が 3 の場合は 2 を指
		定します。





discovery.zen.ping.unicast.hosts	Elasticsearch クラスタを複数台で構成する場
	合、各ノードの IP アドレスを指定します。
	例:
	["ip-node1", "ip-node2", "ip-node3"]
network.host	Elasticsearch サービスがリッスンする IP ア
	ドレスを指定します。
	複数 NIC の場合に設定を推奨します。

● C:\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\config\jvm.options を開き、必要に応じて下記のパラメーターを変更します。

パラメーター名	既定値	説明
-Xmx	-Xmx2047m	Java ヒープメモリの最大割り当て容量を指定します。マシ
		ン全体のメモリの半分より少なくなるように指定します。
-Xms	-Xms2047m	Java ヒープメモリの最小割り当て容量を指定します。マシ
		ン全体のメモリの半分より少なくなるように指定します。
-XX:HeapDumpPath		Java の OutOfMemoryException イベントが発生した時にヒ
		ープダンプが保存されるディレクトリを指定します。
		例:
		-XX:HeapDumpPath=C:\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\logs

5.3 Windows 版 Kibana のインストールと設定手順

- Windows 版 Kibana をインストールする手順について説明します。
- 次のサイトより Kibana 5.5.2 Windows 版をダウンロードします:
 - https://www.elastic.co/downloads/past-releases/kibana-5-5-2
- Zip ファイルを解凍し、C:\ProgramData\Elastic\Kibana 配下に bin フォルダなどを配置します。
- C:\ProgramData\Elastic\Kibana\config\kibana.yml を開き、必要に応じて下記のパラメーターを変更します。

パラメーター名	既定値	説明
server.host	localhost	Kibana サービスがリッスンする IP アドレスを指定し
		ます。リモートアクセスする場合には必須の設定で
		す。



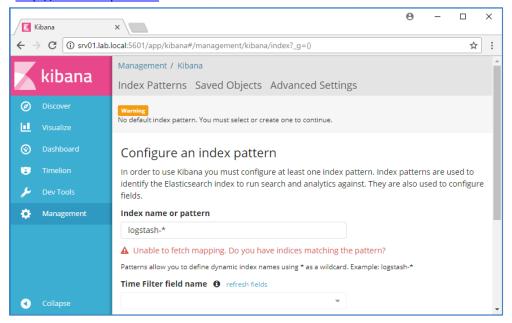


elasticsearch.url	http://localhost:9200	参照する Elasticsearch の URL を指定します。
		elasticsearch.yml で network.host を設定した場合、そ
		の IP アドレスを含む URL に変更します。

● C:\ProgramData\Elastic\Kibana\bin 配下の **kibana.bat** を実行し、最後に "Status changed from yellow to green – Ready"と表示されることを確認します。

```
C:\(\foatharrow{\text{Kibana Server}}\)
C:\(\foatharrow{\text{Foatharrow{Kibana Ybin}\text{kibana Bat}}\)
\[
\left(\foatharrow{\text{ComparanData}{\text{Elastic}\text{YKibana}{\text{Fibana}\text{bana}\text{Batus}}\]
\[
\left(\foatharrow{\text{Elastic}\text{VKibana}{\text{Fibana}\text{Batus}}\)
\[
\left(\foatharrow{\text{Lastic}\text{Search}\text{Batus}}\)
\[
\left(\foatharrow{\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\text{Lastic}\te
```

● ブラウザーで http://<kibana-ip>:5601 を開き、Kibana コンソールが表示されることを確認します。

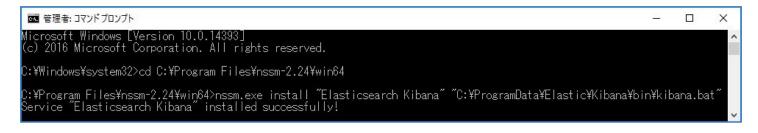


- Kibana を Windows サービスとして管理するには、次のサイトから NSSM をダウンロードします。
 - https://nssm.cc/download





- C:\Program Files\nssm-2.24 に解凍し、win64 ディレクトリへ移動し、次のコマンドを実行します。
 - > nssm.exe install "Elasticsearch Kibana" "C:\ProgramData\Elastic\Kibana\bin\kibana.bat"



● Windows サービスより "Elasticsearch Kibana" が起動できることを確認します。

5.4 Orchestrator での Elasticsearch 接続設定と動作確認

● Orchestrator から Elasticsearch ヘログ送信を行うには、Web.config の次の箇所で Elasticsearch の IP アドレスまたはホスト名を指定します。

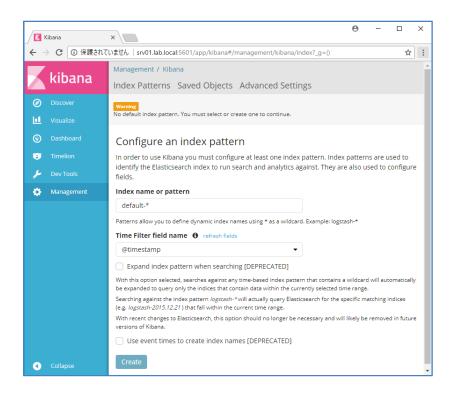
<targets>

<target xsi:type="ElasticSearch" name="robotElastic" uri="http://<elastic-ip>:9200" ... /></target> <target xsi:type="ElasticSearch" name="serverElastic" uri="http://<elastic-ip>:9200" ... /></target> </targets>

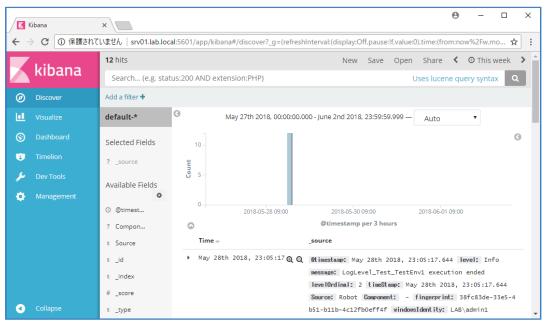
- IIS マネージャーで Orchestrator サイトを再起動します。
- Orchestrator で任意のジョブを実行し、ログを生成します。(Robot との接続設定は手順 6.1 参照)
- Kibana コンソールを開き、Index Pattern を設定し、Create をクリックします。
 - Index name or pattern: default-*
 - > Time filter field name: @timestamp







● Discover メニューを開き、右上のタイムラインを This week などに変更し口グが表示されることを確認します。

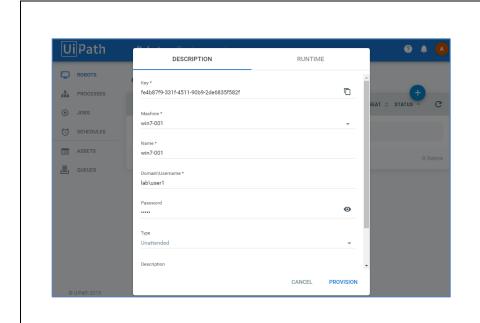






6. 種々の設定

6.1 Attended / Unattended Robot との接続設定

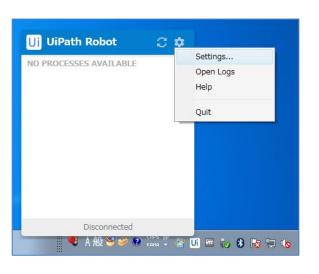


Orchestrator から Attended Robot または Unattended Robot に接続するには、まず Orchestrator 管理コンソールで Robot プロビジョニングを行います。

[+] をクリックできない場合には、次のサイトを参照して Orchestrator のアクティベーションを行います。

https://orchestrator.uipath.com/docs/activating-and-uploading-your-license

PROVISION をクリックする前に、あらかじめ Key をクリップボードにコピーしておきます。

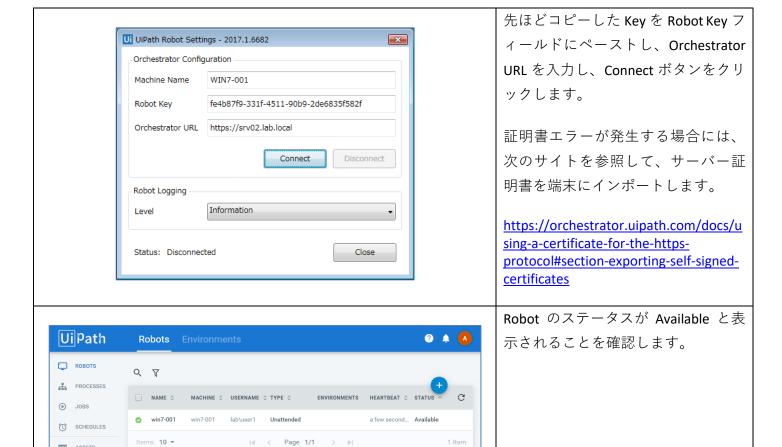


UiPath Robot がインストールされた端末にて、通知領域の Ui アイコンをクリック→歯車をクリック→Settings をクリックします。



ASSETS



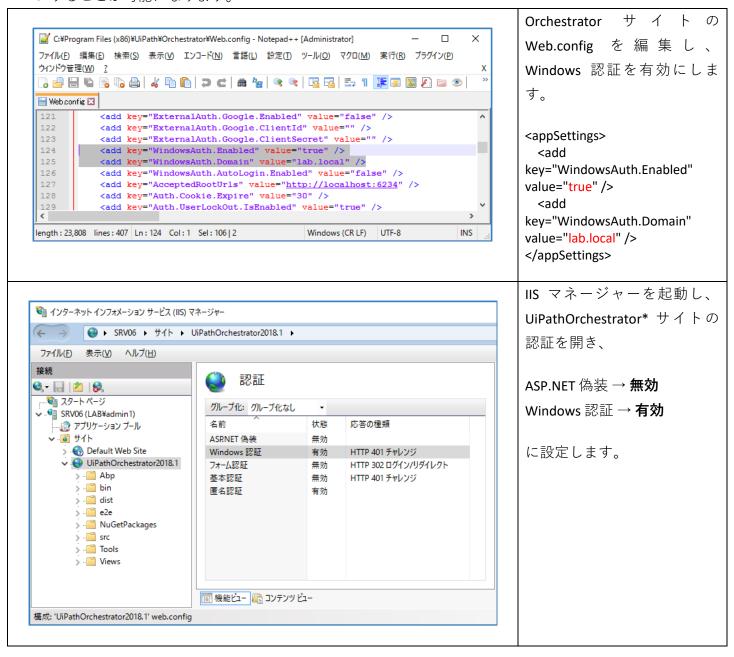






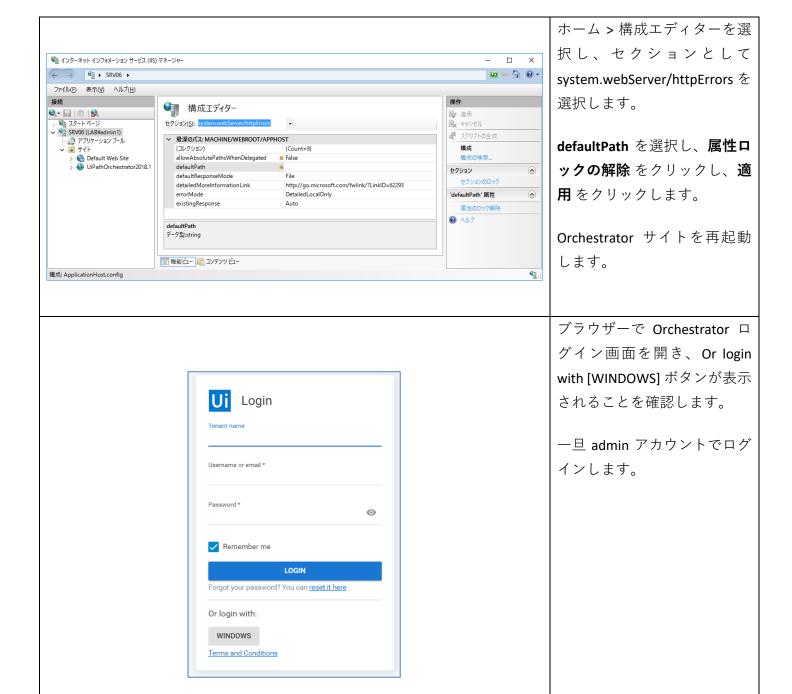
6.2 Active Directory 連携

● Orchestrator を AD (Active Directory)と連携することにより、AD アカウントを使用して Orchestrator にログインすることが可能になります。



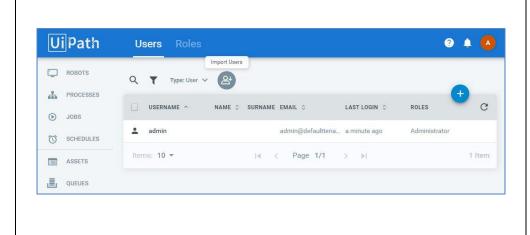




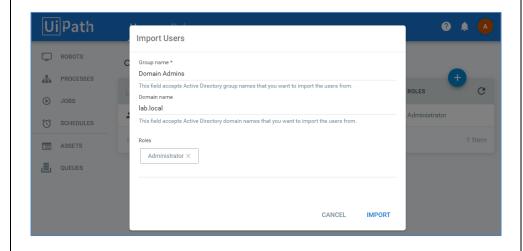








Users 画面にて **Import Users** ボタンをクリックします。



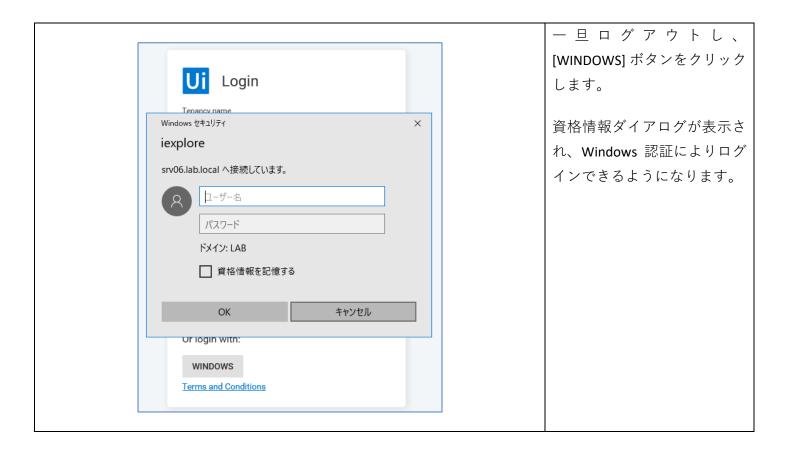
アカウントをインポートする AD グループを選択し、適切 な Role を指定します。

グループとメンバーはあらか じめ AD で作成しておきま す。

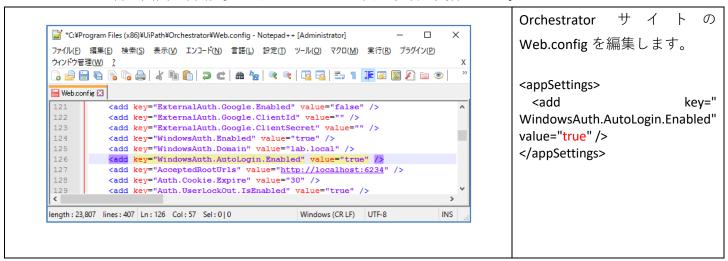
注意: インポート後にメンバーなどが変更された場合は自動的に同期されません。





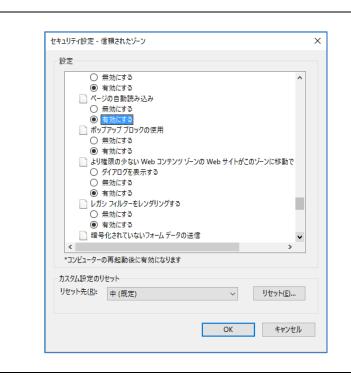


● Orchestrator 管理画面に自動的にログインするには次の手順を実行します。

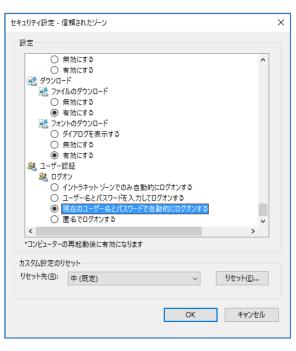








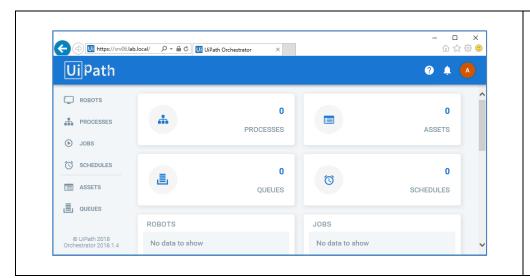
IE のインターネットオプショ ン>セキュリティ>ローカル イントラネットまたは信頼さ れたゾーン (Orchestrator URL が含まれるゾーン) > レベルの カスタマイズ > ページの自動 読み込み を有効にする



ユーザー認証 > ログオンにて 「現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする」を選択して、OK をクリックします。







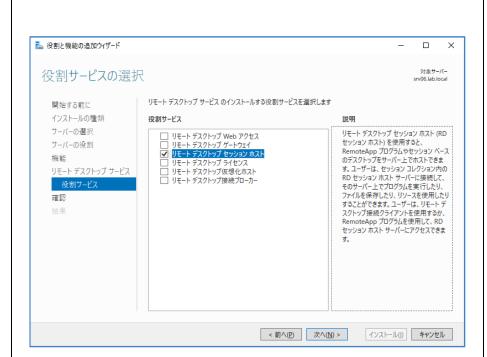
ブラウザーで Orchestrator URL にアクセスすることにより、 Windows 認証後、ダッシュボ ードが表示されるようになり ます。

6.3 高密度 (High Density) ロボットの使用

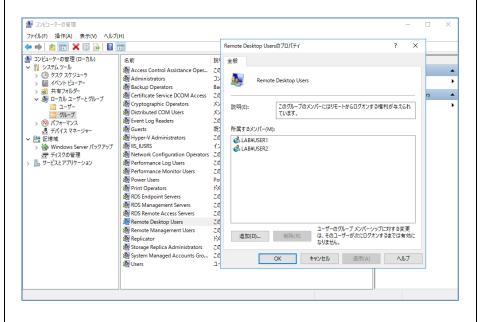
- 高密度ロボットを使用することにより、Windows Server 上で同時に複数ユーザーにてジョブを実行できる ようになります。ジョブ実行時には RDP を使用して複数セッションを確立するため、ロボットが配置され た Windows Server では**リモートデスクトップセッションホスト**の役割と RDS CAL ライセンスが必要となり ます。
- ジョブ実行時の RDP セッションは、ロボット端末において UiPath Robot サービスがループバックインターフェース (127.0.0.1) に対して開始するため、ファイアウォールのポートを新たに開ける必要はありません。
- 参照: https://robot.uipath.com/docs/setting-up-windows-server-for-high-density-robots







ロボット端末でリモートデスクトップセッションホストの役割を有効にし、OS を再起動します。

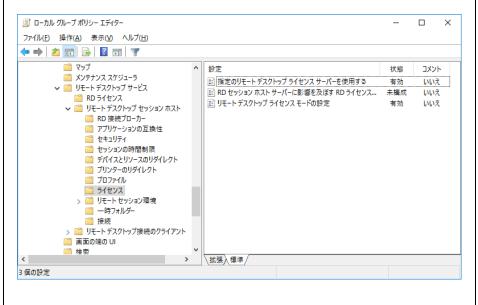


コ ン ピュー ター の 管 理 (compmgmt.msc) を開き、Remote Desktop Users にジョブの実行ユーザーまたはグループを追加します。

またそれぞれのユーザーでリモートデスクトップ接続できることを 確認します。





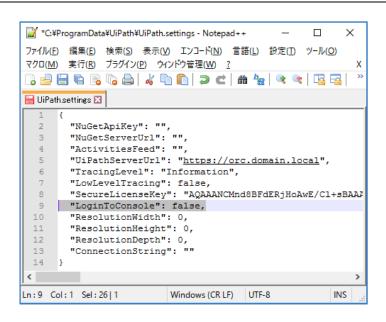


グループポリシーにて RD セッショ ンホストのライセンスサーバーと モードを設定します。

(設定しない場合は **120** 日間評価版 として動作します)

コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > リモートデスクトップサービス > リモートデスクトップセッション > ライセンス にて次のポリシーを設定します。

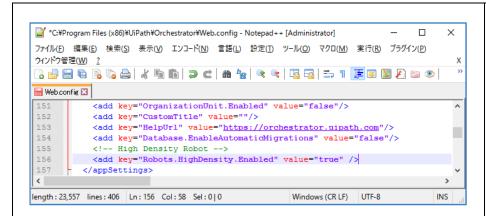
- 指定のリモートデスクトップライセンスサーバーを使用する
- リモートデスクトップライセン スモードの設定



C:\ProgramData\UiPath 配下の UiPath.settings をエディターで開き、LoginToConsole を false に設定して保存します。







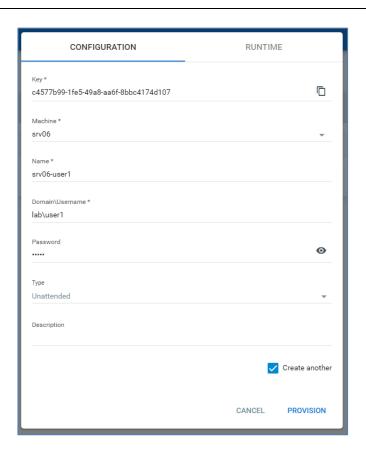
Orchestrator v2018.1 の場合、 Web.config を編集し、次の行を追加 し、IIS サービスを再起動します。

<appSettings>

<add key="Robots.HighDensity.Enabled" value="true" />

</appSettings>

Orchestrator v2018.2 ではこの手順は 不要です。

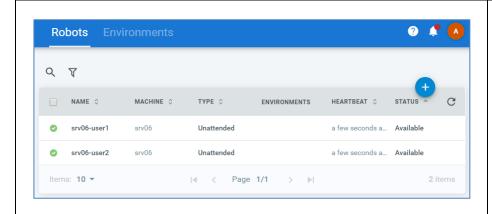


この設定により Orchestrator で Robot を Provision する際に [Create another] のチェックボックスが表示されるようになり、同一マシンに複数ユーザーを指定できるようになります。

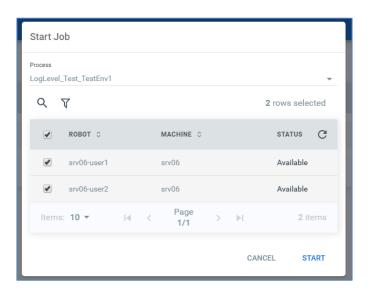
[PROVISION] をクリックした後、2 人目のユーザー名を指定して Robot をプロビジョニングできるように なりますが、1 人目と Robot Key お よびマシン名が同一であることを 確認します。



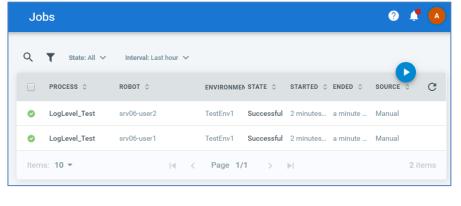




手順 6.1 と同様にロボット端末の接続設定を行い、複数ロボットでAvailable になることを確認します。



ジョブを複数ロボットで同時実行 し、両方で成功することを確認します。

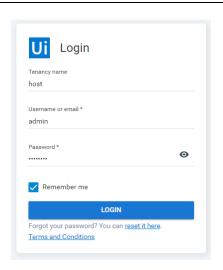






6.4 テナントの作成

- Orchestrator インスタンスを論理的に分割し、マルチテナント環境を構成することが可能です。
 - ▶ テナントの詳細はこちらをご参照ください: https://orchestrator.uipath.com/docs/about-tenants
 - ▶ マルチテナント環境ではテナントごとにライセンスが必要となります。詳細については担当営業までお問い合わせください。



新規インストール時では default という名前のテナントが作成されます。追加のテナントを作成するには、次のアカウントでOrchestrator 管理コンソールにログインします。

- Tenancy name: hostUsername: adminPassword: 3edcVFR\$

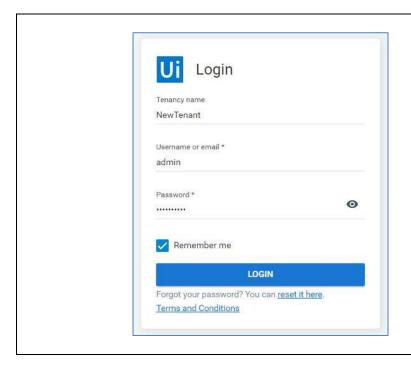
PROVISION

ログイン後、[+] ボタンをクリックし、テナント名および adminパスワードなどを入力し、
[PROVISION] をクリックしてテナントを作成します。

注意: テナントを無効化すること は可能ですが、削除や名前変更 はできません。



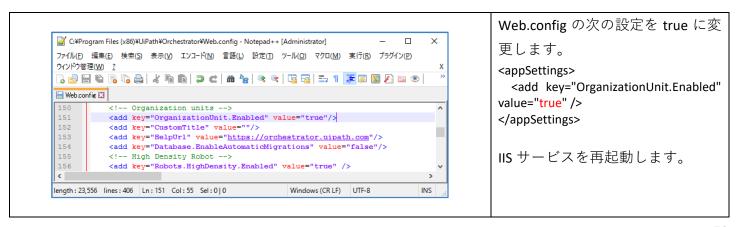




一旦ログアウトし、作成したテナントに対してログインできる ことを確認します。

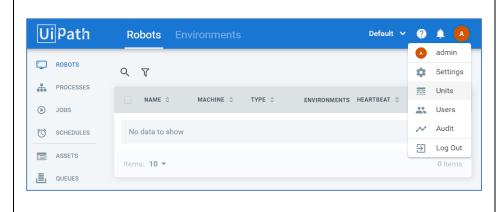
6.5 組織単位 (ユニット) の作成

- 組織単位 (ユニット) を使用することにより、テナント内の Orchestrator コンポーネントを論理的に分割することが可能です。
 - ▶ 詳細についてはこちらをご参照ください: https://orchestrator.uipath.com/docs/about-organization-units
 - ▶ 組織単位を使用する場合、追加のライセンスは不要です。

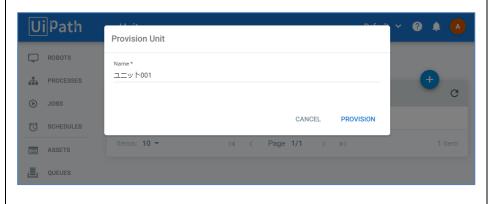








管理メニューより Units を選択します。

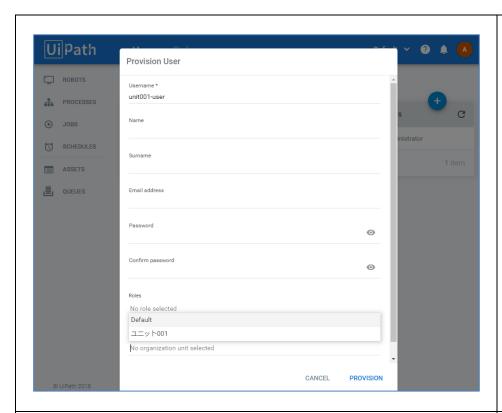


[+] をクリックし、ユニット名を 入力、[PROVISION] をクリック し、ユニットを追加します。

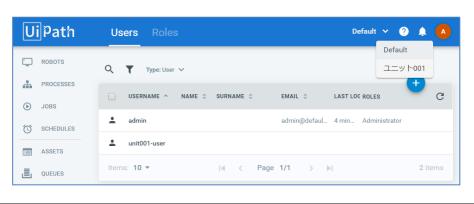
ユニットに所属するユーザーを選択し、[UPDATE]をクリックします。







ユーザーを作成または編集し、権 限を持つユニットを選択します。



現在のログインユーザーで権限を 持つユニット一覧が表示され、切 り替えが可能になります。

以上